

第3学年 図画工作科学習指導案

ろ組 男子 17 名 女子 17 名 計 34 名

指導者 中原 大士

1 題 材 布をつないでいくと

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

本題材は、遊具に布をつなぐことを楽しみながら、気付いた布の形や色の特徴を生かして表現する造形遊びの題材である。

この期の子どもたちは、ある程度物事を関連付けて考えられるようになり、友達の発想やアイデアを利用したり、表し方を紹介し合ったりするなど、交流し合うことで表現をより高めていくことができるようになる。さらに、手などを十分に働かせ用具を用いたり、全身の感覚を使って材料を加工したりして表現することができる。

そこで、本題材では、布の特徴を捉え、組み合わせた形や色の視点で比較したり、自他の表現のよさや面白さとイメージを関係付けて布をつなぐ活動を通して、もっと遊具を楽しい場所にしたいという意欲を高め、自分や友達の表現を、組み合わせた布の形や色といった視点で捉え、そのよさや面白さから表したい新たな表現を想像したり、自分や友達の表現における形や色などの面白さや工夫に気付き、そのよさを味わったりする力を伸ばすことをねらいとしている。さらに、布や遊具の特徴を生かしてつなぐ技能を高めることもねらいとしている。

このように、布をつなぎ見つけた形や色の特徴を生かして発想し、表現する造形遊びの題材は、第4学年の「つくろうあそぼうゆめの森」で、場所の特徴を生かして発想し、様々な材料を使いながら全身を使って表現する活動へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

本題材で扱う布は、丈夫で柔軟性があり、子どもたちにとって大変扱い易い材料である。また、結ぶ、包むなど様々な造形行為が容易にでき、試行錯誤しながら組み合わせた形や色を考え、表現することができる。さらに、色が数種類あるので、自分のイメージに合わせてつなぐ色を工夫する楽しさを味わいながら、意欲的に取り組む活動を展開していくことができると考える。

そこで、本題材の展開にあたっては、布で遊具を楽しい場所に変えたいといった子どもの思いを基に、活動のめあてを工夫する。また、組み合わせた形や色といった視点で自他の表現のよさや面白さを見いださせたり、自分の思いやイメージと関係付けて表現させたりする。

具体的には、まず、布を遊具につなぐことに興味をもたせるために、教師が実際につないでみせやってみたいことを交流させる。そして、自分ならどのようにつないでみたいか問い、活動の見通しをもたせる。次に、もっと遊具を楽しい場所に変えたいという思いを高め、組み合わせた布の形や色といった視点で、自他の表現のよさや面白さを捉えさせるために、高い遊具の上から表現を眺めさせ、子どもたちの思いをまとめ、活動のめあてを設定する。また、捉えた工夫するポイントと自分のイメージを関係付けて表現させるためにイメージをもたせることにつながる発問を工夫する。さらに、視点を基に、見たり、よさや面白さをイメージに關係付け表現することのよさを実感させたりするために、見いだした造形的な視点を基に、自分や友達の作品のよさや面白さを感じ、味わう活動を設定する。

これらの学習を通して、造形的な創造活動に主体的に取り組む態度を培い、自分の思いに合わせて創造的に発想や構想をしたり、よさや面白さを感じ取ったりする能力を高めることができる。また、対象や事象を複数の造形的な視点で捉え、捉えたよさや面白さを自分のイメージに合わせて取舍選択しながら考えられるようになる。このような学習を積み重ねることで、手や体を動かしながら、創造的にものごとを考えて表現したり、自分や周りのものごとの価値を感じたりしながら、社会や生活の造形に主体的に関われるようになっていく。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちは、これまでの経験の中で、24名の子どもたちが布を使い遊んだことがない。(※1) また、布を使った遊びが思い付かない子どもが9名いる。(※2) そこで、教師が

実態調査		3年ろ組	34名(4月中旬実施)
1	布を使い遊んだことはありますか。	ある(10名)	ない(24名) ※1
2	布を使いどのような遊びができそうか思いつきますか。	はい(25名)	いいえ(9名) ※2
	(例) 長くつなぐゲーム 秘密基地づくり 中に入って遊ぶ		
3	布には、どのような特徴があるでしょうか。 ※3		
	・結ぶことができる(30名)・色がたくさんある(28名)		
	・包むことができる(20名)		
	・つなぐとカラフルになる(6名)		
	・つなぐといろいろな形になる(5名)・わからない(5名)		
4	自分の作品を見せたり友達作品をみたりすることは好きか。 ※4		
	好き(20名) 好きではない(14名)		
	(好きでない理由) ・自分の作品に自信がない		
	・交流する良さがわからない		
5	布と布を結ぶことができるか。	できる(32名)	できない(2名)
6	布をつなぐ活動をどのように楽しむか。(実技) ※5		
	つなぐ行為自体を楽しむ(19名)		
	作品をつくって楽しむ(15名)		

ないで見せたり、実際に布に触れる経験を十分に味わわせたりした上で学習を進めていく。また、布の特徴への気づきについて(※3)は、布をつなぐといろいろな形になる、色がカラフルになるといった回答が少なかった。その理由として、布に触れる経験があっても、布同士をつなぐ経験が少ないことが考えられる。そこで、多くの布から選ぶことができる場を設定したり、つなぎ、特徴に気付いた子どもを価値付けたり紹介したりする必要がある。鑑賞活動について(※4)は、自分の作品を友達に見せ合ったりすることについて、14名の子どもが「好きではない」と答えており、そのほとんどが「自分の作品に自信がない」「交流する良さが分からない」という理由からである。そ

の理由として、伝え合ったり学びあったりすることのよさを感じ取る経験が少ないからであると考えられる。そこで、「見せ合うことで、友達の良さが自分の作品の良さにつながっていく」「新しいことがわかる」といったよさに気付かせ、気付けたことを価値付けるようにしていきたい。さらに、布をつなぐ活動をどのように楽しむかについて(※5)は、19名の子どもが行為自体を楽しみ、15名の子どもがイメージを基に作品を作り楽しんでいった。布をつなぐこと自体を楽しむ行為志向型や、布の形や色を基に何かをイメージし表現する作品志向型、二つの型を行き来する中間型、それぞれに応じた発問や価値付けを行う必要がある。

(4) 指導上の留意点

ア 「思いをもつ・見通す」段階では、子どもたちが遊びのイメージをもてるようにするために、教師が実際に布を遊具につなぐ様子を見せたり、布に触れさせたりし「どのような遊びができそうかな。」と問うことで布をつなぎ遊びたいという思いや活動の見通しをもたせる。

イ 「思いを表現する」段階では、「遊具を楽しめる場所に変えたい。」という子どもの思いを高め、主体的に造形的な視点を見だし生かしたくなるようにするために、「どのように布をつなげば、もっと遊具が楽しい場所になるだろう」という活動のめあてを設定する。その際、表現したもので実際に遊んだり、造形的な視点に気づきやすい場で鑑賞活動を行わせたりし、布の組合せを工夫したことによる楽しさの変化を実感させることで、友達の表現をもっと見て、自分の表現に生かしたいという思いを高めさせる。また、工夫するポイントと自分のイメージを関係付けて考えさせるために、新たに思い付いた子どものつぶやきを取り上げ、工夫するポイントとのつながりが分かるように板書したり、「どこに、どのような工夫をすればいいかな」といった問いかけを行ったりする。

ウ 「思いを味わう」段階では、視点を基に、自他の作品を見たり、捉えたよさや面白さをイメージに関係付け表現することのよさを実感させたりするために、最初に立てた、題材のめあてやイメージと照らし合わせながら、組み合わせた布の形や色をいった視点を基に、自分や友達の表現を鑑賞する活動を設ける。その際、表現したもので遊んだり、他者と交流したりすることによって、新たな発見やイメージに変容が見られたことを価値付けていくようにする。

3 目 標

- (1) 遊具に布をつなぐ活動に興味をもち、体全体を使って、進んで友達と表現することができる。
- (2) 布をつなぎながら、つなげてできる形や色の変化や組合せの面白さに気づき、新しい形や色などの組合せを思い付いたり、新たなイメージをもったりすることができる。
- (3) ・ 布を組み合わせた形や色等の造形的な視点を理解することができる。
・ 布や遊具の特徴を生かして布と布を結ぶことができる。

4 指導計画（全3時間）

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
思いをもつ・見通す	1 遊具やロープに布をつないで遊ぶことについて話し合う。  布をつなぐと形や色が工夫できそう。ジャングルジムにつないでみたい。	1	○ 遊具やロープに布をつなぐことに意欲をもたせるために、実際に教師が遊具に布をつなぐ様子を見せ、「みんなだったらどのようにつなぎたいかな。」と問い、活動の見通しをもたせる。
	2 題材のめあてを話し合う。 布をつないで、遊具を楽しい場所にしよう。		○ 題材のめあてへと焦点化できるように、気付いたことや工夫したいことを発表させ、「遊具をもっと楽しい場所に変えたい」という思いを引き出す。
	3 遊具やロープに布をつないで遊ぶ。  遊具が楽しい場所に変身してきた気がするな。高いところから見てみたい。		○ 思いに合わせて楽しみながら表現することができるようにするために、自分のイメージに合う布を選んだり、組み合わせたりすることのできる小分けにした数種類の布の置き場所を設定する。
思いを表現する	4 高いところや離れたところから鑑賞し造形的な視点に気付く。  いつも目立たない場所が明るくなった。 形や色の組み合わせを工夫すると楽しくなった。	1（本時）	○ 組み合わせた形や色といった造形的な視点を見いださせるために、遊具全体を見渡させながら「最初の遊具と比べてどのように変わったかな。」と発問し、楽しさの変化を比較させると共に、なぜそのような楽しさの変化が生まれたかについて問う。
	5 見いだした造形的な視点を生かして活動する。  カラフルな部屋をつくりたい。 遊具と遊具をもっとたくさんの布をつないでかざりたい。		○ 気付いた布の特徴を今後の表現に生かすことができるようにするために、子どもの表現意図に共感したり、生かした姿を価値づけたりしていくようにする。
	6 つくった場所で遊ぶ。  布でつくったカラフルな部屋はすてきだな。次は虹色のトンネルをつくってみようかな。		○ 造形的な視点を生かすよさに気付かせるために、いろいろな布を組み合わせている子どもを価値付ける。
思いを味わう	7 できあがった作品を鑑賞し、よさや面白さを伝え合う。  布の形や色などを工夫したら楽しい遊具になったよ。お家でも布の形や色の工夫を生かして何かつくってみたい。	1	○ 布の特徴やつなぎ方の工夫のよさを味わわせるために、友達がつないだ場所に遊びに行ったり、遊具全体を眺めたりする場を設定する。
			○ 題材全体の学びを振り返り、今後、視点を基に表現・鑑賞していこうとする意欲をもたせるために、造形的な視点を基に自他の作品を鑑賞させ、互いに認め合う場を設定する。

5 本 時 (2 / 3)

(1) 目 標

遊具に布をつなぐことに興味をもち、体全体を使って遊具に布をつなぐ活動に取り組むことを通して、布同士を適切につなぎながら、布を組み合わせでできた形や色の面白さに気づき、気付いた面白さを生かして新たなイメージをもち、表現することができる。

(2) 本時の展開に当たって

組み合わせた形や色といった視点を基に、自他の作品の面白さを捉えさせるために、**遊具全体を見渡させながら「イメージ通り楽しい遊具にするにはどんな課題があるかな。」**と問い「**もっと表現を工夫し楽しい場所にしたい**」という思いを基に「**どのように布をつなげば、もっと楽しい場所になるだろう**」という活動のめあてを設定する。また、とらえた面白さを自分のイメージと関係付けさせるために、「**どうしてこのような楽しい場所になったのかな。**」と問い、活動を振り返らせる。

(3) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
思いをもつ・見通す	1 題材のめあてについて確認する。 もっと遊具を楽しい場所にしよう。	(分)	○ 遊具に布をつなぐことへの意欲や見通しをもたせ、題材のめあてを設定するために、前時で表現した遊具で遊ばせ、楽しい場所のイメージについて再度確認する。 ○ 「もっと楽しくするために、工夫していくことを見つけたい」という思いを高め、子どもたちから出されたつぶやき等を基に「どのように布をつなげばもっと遊具が楽しい場所になるだろう」といった活動のめあてを設定するために、 遊具全体が見える場所から自分や友達の表現を眺めさせ、「楽しい遊具にするにはどんなことを工夫すればよさそうかな。」 と問う。
	2 活動のめあてを設定する。 どのように布をつなげば、もっと遊具が楽しい場所になるだろう。	10	
思いを表現する	3 遊具全体が見える場所から作品を眺め、造形的な視点を見いだす。	30	○ 組み合わせた布の形や色といった視点を基に捉えた表現の面白さを、自分のイメージに関係付けやすくするために、表現の途中で鑑賞する場を設定し、「 見つけた面白さを、みんなの表現のどんなところに生かせそうかな。 」と工夫するポイントを表現に生かしていくことを意識させる発問を行い、細かなイメージを引き出すようにする。その際、イメージがもてず、表現することに戸惑いが見られる児童には、「友達の作品でイメージに近いものはないかな。」と問うようにする。 ○ 造形的な視点を生かし表現するよさに気付くことができるように、 組み合わせた布の形や色を生かして表現している子どもを価値付け、周りで活動する子どもたちで共有する場を設定する。
	4 よさや面白さを生かして、遊具に布をつないで遊ぶ。		
	行為志向型  イメージ 布を何枚もつなげば面白そうだな。 作品志向型  イメージ 遊具同士をつなぎ部屋にしたい。 自分の作品 遊具をつないだ形を見ると虹色のトンネルに見えるぞ。 友達の作品 たくさんの色がつながってしましま模様に見えるぞ。 【工夫するポイント】 組み合わせた形や色		
	新たなイメージ いろいろな方向に広がるように布をつなげて、部屋がいくつもあるカラフルな家になろう。 新たなイメージ 黄色、みどり、赤と交互に何枚もつないでしましま模様を表現してみよう。		
思いを味わう	5 遊具全体が見える場所から作品を眺め、自分や友達の作品のよさを紹介し合い、表現の変容について話し合う。	5	○ 本時の学びを実感させるために、遊具全体を見渡せる場で、「 どうしてこのような楽しい場所になったのかな。 」と問い、自他の表現を見ながら活動を振り返らせ、自分や友達が工夫したことを発表させる。その際、 組み合わせた布の形や色を工夫できたことを価値付け、今後の活動への意欲につなげられるようにする。
	 布をつないで遊具が楽しい場所に変身したよ。組み合わせた形や色を工夫すると遊具がもっともっと楽しい場所になりそうだなあ。		